

# 私が思うこと

今回はこの春から坂祝小学校・中央公民館に勤務され、子どもたちのために働いていただいている、お二人の方にそれぞれの思いを語っていただきました。

げんきいっぱい  
坂祝小学校

校長 佐伯 好洋



四月、坂祝小学校に赴任し、驚いたことがたくさんあります。その一つが子どもたちの元気の良さです。登校時には、ハイタッチと共に元気なあいさつの声が響きます。朝の会が始まると、あちこちの教室から美しい歌声が響いてきます。元気なあいさつと歌声で小学校の一日が始まります。入学式では、体育館に響き渡る校歌の歌声に感動しました。なかよし集会でもたくさんさんの歌のプレゼントがあり、1年生を温かく迎えようとする気持ちや伝わってきました。学校を訪問される地域の方々や学校関係者の方からも、あいさつや歌声を褒めていただくこと

がたくさんあります。このような子どもたちと共に勤務できる喜びを日々味わっています。

また、たくさんの方々地域で子どもたちを見守ってくださっていることにも驚いています。学校まで子供たちの通学班に同行してくださる方や、交差点で道路の横断を支援してくださる姿をあちこちで見ます。温かい地域の支えで学校の安心・安全が守られていると実感しています。子どもたちの元気は、この安心できる環境があればこそだと思っています。先日行われた「元気なさかほぎ発表会」では、6年生が主張作文や合唱の発表をさせていただきました。爽やかなまとまりのある歌声に、地域の方から「元気をもらった。」という感想をいただきました。地域の皆様の日頃のご支援に対し元気を届ける学校づくりを大切にしていきたいと思えます。今後もご支援、

ご協力をよろしく願います。

将来の宝である子を育てやすい坂祝

宮内 智鶴子



主人の仕事の関係で、坂祝町に転居してきたのは長子が生まれた約三十五年前。子供を預かってみてくれる場所がなければ、仕事を辞めることも致し方ない状況でした。幸い未満児を預かってくれる保育園が見つかったおかげで、育休明けも仕事に復帰することができました。もし、あの時保育園がなければ今年の三月に定年退職することはできなかつたでしょう。また、町内には病院もなく、夜の7時までに入院すれば見てもらえる鶴沼の病院にまで連れて

行かざるを得ませんでした。

しかし、今ではありがたいことに気軽に足を運べる病院が複数あります。また、大型スーパーもでき大変便利になりました。

私の今までの仕事はというと、坂祝を除いた可茂管内での異動がほとんどでした。定年を機に、坂祝に腰を据えて、日々を送ってみると、今まで見えていなかった坂祝の良さがたくさん発見できるようにになりました。

未満児は、今や待機が出るほどの多さで受け入れています。そして、就学前のシステムの充実がされてすばらしいと感じています。これも、民意を受けての行政や議会のおかげでしょう。今、坂祝町でも来年度のコミュニケーション・スクールの立ち上げに向けて準備が進められています。人口減少が懸念されるだけに、将来の担い手となる子ども達が、坂祝町に根付き、

または、町外に出ても坂祝町のことを考えられる子ども達の育成や増加につながることを願っています。

## 編集後記

日本のあちこちで地震が起き、また記録的な大雨による災害が発生しています。身近な所では、6月末に美濃加茂市で、水道が断水となったり、7月初めには関市でも河川の氾濫による災害が発生しました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。あらためて災害に備える必要性を感じます。まだまだこれから台風もやってきます。町民の皆さんも、どうか備えを充分にお願いします。

## 広報編集委員会

委員長 松田和樹  
副委員長 河村利道  
委員 飯田正仁  
柴山佳也